

**景観グループ**

**里山の今**

**ならやま虫だより**



◆草刈り隊で、はや3年

シニア自然  
 大学校を卒業  
 後、クラスの  
 学友に誘われ、一度も体  
 験入学をしないまま、「奈良・人と自然の会」に入  
 会しました。



入会時は特に希望グループはなかったのですが  
 辻本事務局長から全体の活動エリアを案内しても  
 らいながら回っていると、景観がきれいな場所と  
 手入れがあまり行き届いていない場所があり、手  
 入れをすることで、こんなに景観に違いが出るの  
 かと、今、思えばそんな動機だったのかもしれま  
 せん。特に入会時は各グループの作業内容を把握  
 ができるよう事務局長をはじめ、各Gリーダー、  
 先輩方のプレゼンは心強く、これから入会しよう  
 と思う方には判断材料ともなり、入会後はならや  
 まの活動に対する自分なりのしっかりした思いが  
 できるのではないのでしょうか。

現在、雑草、竹林、雑木、倒木処理など、ほぼ  
 年中作業があり、毎回、単調な作業ですが、終わっ  
 て眺めると、うっとりするような景観に変わって  
 いることにたいへん満足しています。

外部から来られる方がまず目に入る景観がこの  
 ならやまの第一印象になると思うと、ついつい気  
 持ちは先走り、作業エリアも広がっていきます。

また他のグループで花や野菜、果樹など、色と  
 りどりの作物を育てていただいておりますが、少  
 しでも周辺の整備をして、耕作地を含め全体の景  
 観が良くなるよう心掛けていきたいと思ひます。

近年、過疎化や後継者不足で里山の荒廃が目につ  
 きます。なかには竹林が道路までかぶさって危  
 険な状況と思われるような所もよく目にします。  
 そんな状況を見るたびに、周囲が歴史的遺産に  
 囲まれた、このならやまの景観を守るためにも草  
 刈り隊の役割を自覚するとともに、次世代へと継  
 続していく必要性を感じているところです。

田代 一行

◆早春のチョウ

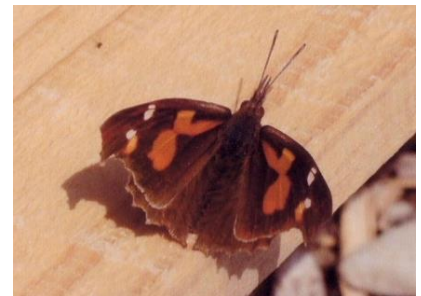
菊川 年明

二十四節気の一つである啓蟄とは、冬籠もりを  
 していた虫が出てくるという意味である。蟄とい  
 う字は閉じこめるという意味の「蟄居」に使われ  
 ている字である。啓蟄は3月の初め頃で、今年  
 は6日であるが、まだこの時期は春の気配は感  
 じられるものの、虫はい出してきような陽気  
 にはなっていない。

しかし、成虫  
 で越冬してい  
 て、この時期  
 に早々と飛び  
 出してくる元  
 気なチョウが  
 いる。ならや  
 まではルリタ  
 テハとテング  
 チョウがよく  
 目に止まる。た  
 いていは風の  
 当たらない日  
 だまりで、翅  
 をいっぱい開  
 いて日向ぼっこ  
 をしている。



ルリタテハ



テングチョウ

ならやまで、成虫で越冬しているチョウは他に  
 アカタテハ、キタテハ、クロコノマチョウ、キ  
 タキチョウ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミ  
 などがいる。これらのチョウは3月下旬には次  
 々に出てくる。蛹で越冬していたアゲハチョウ  
 、モンシロチョウなどもこの頃には現れる。

モンシロチョウは気象庁の生物季節観測の対  
 象種目になっており、「モンシロチョウの初見日」  
 として公表されている。奈良県でのモンシロ  
 チョウの初見日は3月下旬のことが多い。

成虫のチョウの越冬のしかたは、風の当た  
 らない、落ち葉の積もったところで、翅をし  
 っかり閉じて、じっとしているものが多い。落  
 ち葉の積もったところに座ると私たちでも暖  
 かく感じる。